

R a k u R a k u W i n 2

印刷コマンド Ver.2.0

取扱説明書

目次

1	はじめに	1
2	動作環境	3
3	インストール	4
3-1	『RakuRakuWin2』のインストール	4
3-2	『印刷コマンド』のインストール	4
4	使用方法	5
4-1	オプション画面による設定	5
4-2	コマンドラインパラメータによる設定	8
4-3	パラメータを指定する場合のルール	8
4-4	コマンドライン例	8
4-5	パラメータの種類	9
4-6	差し込みデータの行ごとにレイアウトを指定する	11
4-7	イメージフィールドへの差し込み	11
4-8	差し込みデータに改行や制御コードを含ませる	12
4-9	プログラムを作成される場合	13

■ ご注意

本書の内容の全部、または一部を無断で転載することは禁止されています。

本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や記載もれなどお気づきのことがありましたらお買い求めの販売店へご連絡下さい。

本商品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承下さい。

Microsoft Windows は米国 Microsoft Corporation の米国、およびその他の国における登録商標です。

QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

その他、本書中に使用している会社名および商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

1 はじめに

『RakuRakuWin2 印刷コマンド』（以下 印刷コマンド）は RakuRakuWin2 で作成されたレイアウトをコマンドラインから印刷するプログラムです。また可変項目のみを変更しながらの差し込み印刷にも対応しています。

主な用途としてはお客様の作成したプログラムから印刷することが挙げられます。例えば1枚ごとに内容を変えながらの差し込み印刷をする場合です。この時の手順は次のようになります。

① 印刷レイアウトを作成する。

印刷レイアウトは RakuRakuWin2 にて作成します。同時に差し込みデータの列を印字フィールドに割り当てるための差し込み設定をしてください。

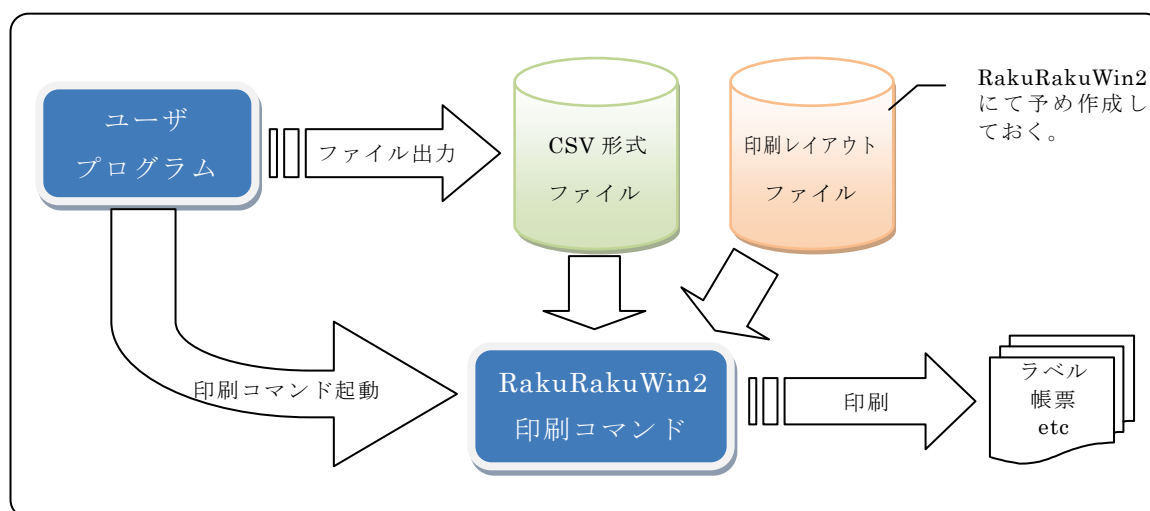
② 差し込みデータを作成する。

差し込みデータはお客様のプログラムにて作成してください。ファイルの形式はカンマ区切りテキストファイル（CSV 形式）に保存します。

③ 印刷コマンドを実行する。

直後に印刷が開始します。

【運用イメージ】



【主な機能】

本ソフトの主な機能は次の通りです。

- **RakuRakuWin2 のレイアウト印刷**
レイアウトを設計時の内容で印刷します。
- **差し込み印刷**
c s v 形式の差し込みデータから **RakuRakuWin2** のレイアウトに差し込み印刷します。
- **レコードごとレイアウト指定**
差し込み印刷時に差し込みデータ 1 レコードごとにレイアウトを指定することができます。
- **ファイルパス補完機能**
差し込みデータ内にレイアウトやイメージファイル名が指定されている場合にファイル名だけで場所や拡張子が無い場合にそれらを自動で補完します。
- **印刷履歴出力**
印刷履歴には差し込みデータ全内容が記録され、印刷日時を任意の列に付加することができます。
- **制御コード対応**
文字フィールドへの差し込み時に改行の指定をすることができます。また、**QR** コードフィールドへ制御コードを差し込みが可能です。
- **プレビュー表示**
プレビュー画面からはテスト印刷をすることができます。
- **差し込みデータファイル削除機能**
印刷後に差し込みデータを削除します。削除しないように設定することも可能です。

2 動作環境

本製品を動作させるために必要な環境は次表の通りです。

表 1 動作環境

項目名	内容
コンピュータ本体	IBM PC-AT 互換機
ディスプレイ	800×600 以上の解像度
オペレーティングシステム	Microsoft Windows 7/8.1/10 何れも 32bit・64bit に対応します。但し 64bitOS 上では 32bit アプリケーションとして動作します。
プリンタ	Windows 用プリンタドライバで動作するもの
アプリケーション	RakuRakuWin2 2.0.0 以上

3 インストール

本製品を使用するために準備する内容について説明します。なお、プリンタドライバについては触れていませんので、ご使用になる製品の説明書に従いインストールしてください。

3-1 『RakuRakuWin2』のインストール

パソコンに『RakuRakuWin2』がインストールされているかご確認いただき、まだの場合は『RakuRakuWin2』をインストールしてください。

インストール方法については『RakuRakuWin2』の取扱説明書をご覧ください。

3-2 『印刷コマンド』のインストール

セットアッププログラムはありません。

「印刷コマンド」の CD より次のファイルをコンピュータ上の任意の場所にコピーしてください。

R a k C p r B . e x e

コピーする場所に制限はありませんが、“C:\Program Files”以下はOSの制約により設定が保存できないため避けて下さい。

また、“デスクトップ”や“マイドキュメント (My Documents)”にコピーした場合、ログインユーザが変わるとファイルが見えなくなることがあることにご注意ください。

以上でインストール作業は完了です。

4 使用方法

「印刷コマンド」で印刷するための設定にはオプション画面を利用する方法と、起動時のパラメータとして指定する方法の2種類があります。

プログラムファイル“RakCprB.exe”はパラメータ無しで起動した場合はオプション画面を表示し、パラメータ有りでは印刷を即実行します。

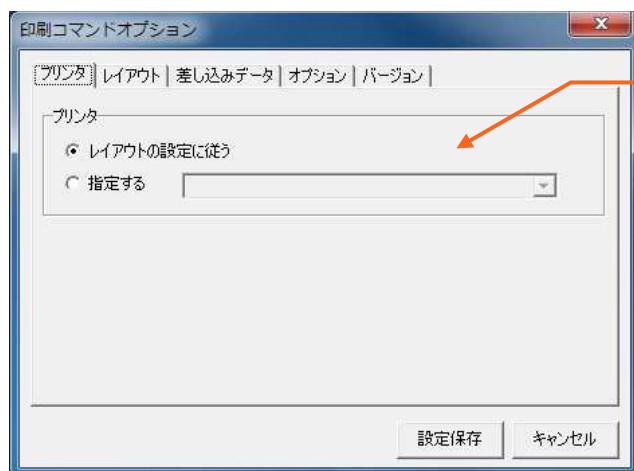
4-1 オプション画面による設定

オプション画面を起動するには“RakCprB.exe”をダブルクリックしてください。設定後は「設定保存」ボタンをクリックするとアプリケーションと同じ場所に次のファイル名で保存されます。

R a k C p r B . i n i

設定内容を破棄したい場合は、このファイルを削除してください。

◆ [プリンタ] タブ

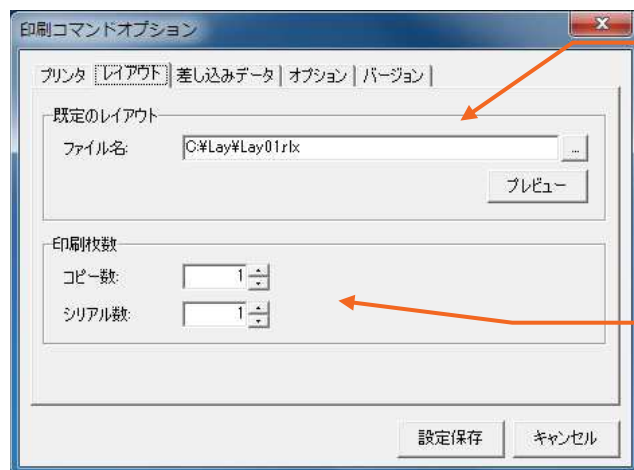


【プリンタ】

次のどちらかを指定します。

- レイアウトの設定に従う
レイアウト設計時のプリンタが使用されます。
- 指定する
右のコンボボックスよりプリンタを指定します。

◆ [レイアウト] タブ



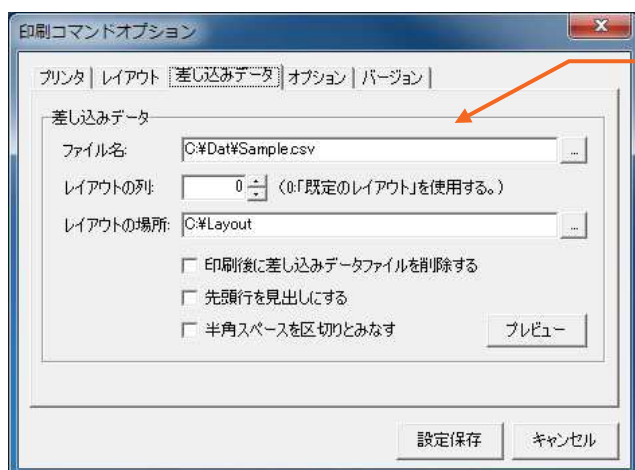
【既定のレイアウト】

印刷するレイアウトを指定します。差し込み印刷の場合の基本レイアウトとしても使用します。
(ただし差し込みデータのレイアウトの列が“0”の場合)
プレビューボタンにより印刷イメージを表示します。

【既定の枚数】

枚数を起動時パラメータや記録中で指定しない場合のコピー数 およびシリアル数を指定します。

◆ [差し込みデータ] タブ



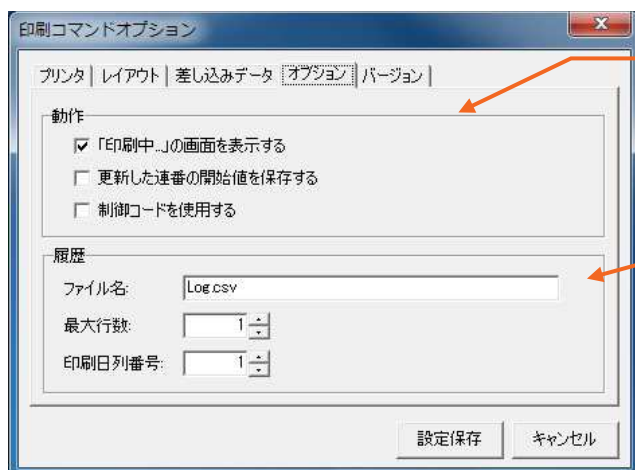
【差し込みデータ】

差し込みデータファイル名と其中でレイアウトを指定する場合の列とファイルの場所を入力します。

差し込みデータファイルをマイクロソフト エクセルによりファイルの種類を「CSV (カンマ区切り)」に指定しての作成する場合は「半角スペースを区切りとみなす」のチェックをはずしてください。

「プレビュー」ボタンにより印刷イメージを表示します。

◆ [オプション] タブ



【動作】

各種動作について設定します。

【履歴】

履歴ファイルには印刷したデータが書き込まれます。

ファイル名：空欄にすると作成しません。
最大行数：0にすると作成しません。

◆ [バージョン] タブ

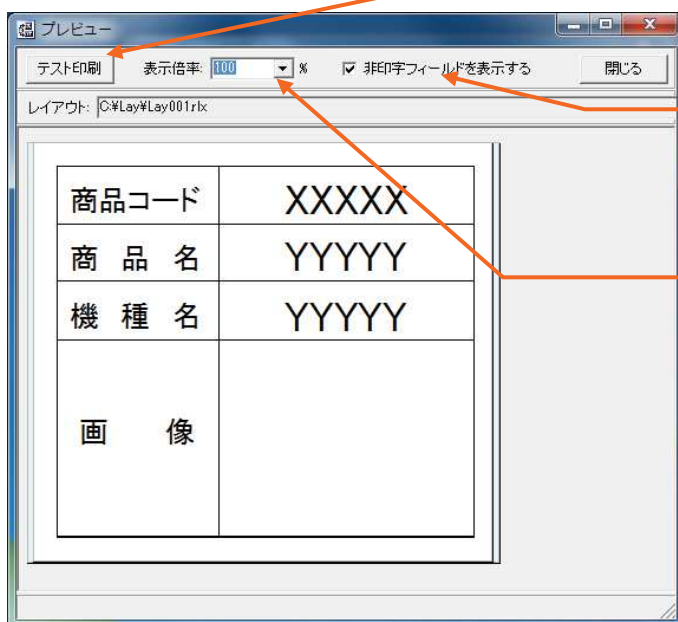


【バージョン】

プログラムのバージョンと起動時パラメータの説明が表示されます。

◆ プレビュー画面（既定のレイアウト）

「レイアウト」タブ内の「プレビュー」ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。



【テスト印刷】

画面の表示内容で印刷することができます。

【非印字フィールドを表示する】

チェックをオンにすると印刷しない設定となっているフィールドを表示します。

【表示倍率】

画面の表示倍率を指定します。

◆ プレビュー画面（差し込みデータ）

「差し込みデータ」タブ内の「プレビュー」ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。



【差し込みデータ】

差し込みデータの内容が表示されます。行をクリックすると指定された行の内容が差し込まれた内容で印刷イメージが表示されます。

4-2 コマンド ライン パラメータによる設定

すべての設定項目は起動時にコマンドラインからのパラメータとしても指定可能です。既にオプション画面で設定されている場合は、コマンド ライン パラメータの内容が優先されます。

4-3 パラメータを指定する場合のルール

印刷コマンド“RakCprB.exe”のコマンド ライン パラメータは、スラッシュではじまり。その後ろには、目的のコマンドを指定する1つまたは複数の文字が続きます。場合によってはコロンと追加データが続くこともあります。“RakCprB.exe”と最初のパラメータの間およびパラメータとパラメータ間はスペースで区切ります。コロン以降の追加データ（ファイルパスやプリンタ名）にスペースを含む場合はその文字列を引用符 ” ” で括ってください。

4-4 コマンドライン例

コマンドライン例を次に示します。ただし、オプション画面では何も設定していないものとします。

● 例 1

```
rakcprb.exe /L:C:¥Layout¥abc.rlz /S:100
```

レイアウト C:¥Layout¥abc.rlz をシリアル数 100 枚で印刷します。
プリンタとコピー数はレイアウトで保持している内容となります。

● 例 2

```
rakcprb.exe /L:C:¥Layout¥abc.rlz /I:C:¥Layout¥abc.csv
```

レイアウト C:¥Layout¥abc.rlz に差し込みデータ C:¥Layout¥abc.csv の内容を差し込み印刷します。

● 例 3

```
rakcprb.exe /L:C:¥Layout¥abc.rlz /P:"TEC B-SX5-JP" /C:1 /S:100
```

レイアウト C:¥Layout¥abc.rlz をプリンタ TEC B-SX5-JP でコピー数 1 枚、シリアル数 100 枚で印刷します。プリンタ名にはスペースを含むために ” ” で括っています。

4-5 パラメータの種類

指定可能なパラメータは次表の通りです。

表 2 起動時パラメータの種類

コマンド	項目名	既定値
詳細		
/A:n (n=0、1、2)	動作モード	0
/A:0 オプション画面を表示する。		
/A:1 印刷を実行する。		
/A:2 プレビューを表示する。		
/C:n (n=-1~9999)	コピー枚数	-1
/C:0 印刷しない。		
/C:-1 レイアウトに設定されたコピー数で印刷する。		
/D+ ・ /D-	差し込みデータ削除有無	/D-
印刷後の差し込みデータ削除を指定する。		
/D+ 削除する		
/D- 削除しない		
/E+ ・ /E-	半角スペース区切り	/E-
差し込みデータ中の半角スペースを区切りとするかどうかを指定する。		
/E+ 区切りとする		
/E- 区切りとしない		
(差し込みデータファイルをマイクロソフトエクセルで作成する場合は「/E-」を指定してください。)		
/F:<ファイルの場所>	レイアウトファイルの場所	(なし)
差し込みデータのレコードにレイアウトが指定されている場合、そのファイルの場所を指定する。		
例) /F:C:¥Layout		
/H+ ・ /H-	差し込みデータ先頭行見出し指定	/H-
差し込みデータの見出し行を見出しとするかどうかを指定する。		
/H+ 先頭行は見出しとし印刷しない		
/H- 先頭行はデータ行とし印刷する		
/I:<ファイルパス>	差し込みデータファイル名	(なし)
差し込みデータファイル名を指定する。		
"/I:" の指定が無い場合、拡張子が"csv"のファイル名を差し込みデータとみなす。		
例) /I:C:¥Data¥abc.csv		
/L:<ファイルパス>	レイアウトファイル名	(なし)
レイアウトファイル名を指定する。		
"/L:" の指定が無い場合、拡張子が"rlz"のファイル名をレイアウトとみなす。		
例) /L:C:¥Layout¥abc.rlz		

/LOGNAME: <ファイルパス>	印刷履歴ファイル名	
印刷履歴ファイル名を指定する。 ファイルが存在しない場合は新規作成し、存在する場合は先頭行に記録される。 例) /LOGNAME:C:\¥Layout¥Log.csv		(なし)
/LOGMAX:n (n = 0 ~ 65535)	印刷履歴の行数制限	
印刷履歴ファイル内の最大行数を指定する。指定した行数を超える場合、古いもの(末尾行)から削除される。		1024
/LOGTIME:n (n = -1 ~ 65535)	印刷履歴の印刷日時記録列	
印刷履歴に記録される印刷日時の列番号を指定する。日時の形式は"YYYY/MM/DD HH:MM:SS"である。例) "2007/11/25 17:59:01" /LOGTIME:-1 末尾の列に記録する。 /LOGTIME:0 印刷日時を記録しない。		1 (先頭列)
/N:n (n=0~65535)	差し込みデータ内のレイアウト名の列番号	
/N:0 既定のレイアウトで印刷します。		0
/P:<プリンタ名>	プリンタ名	
プリンタ名を指定します。指定無しの場合はレイアウト設計時のプリンタとなる。 例) /P:"NPC Printer"		(なし)
/S:n (n=-1~9999)	シリアル枚数	
/S:0 印刷しない。 /S:-1 レイアウトに設定されたシリアル数で印刷する。		-1
/T+ ・ /T-	制御コードの使用有無	
/T+ 制御コードを使用する /T- 制御コードを使用しない		/T-
/U+ ・ /U-	更新された連番の開始値の保存有無	
連番の開始値が更新する設定となっているフィールドを含む場合、印刷後にレイアウトファイルを保存し、次回の印刷に連番が引き継がれるようにする。 /U+ 保存する /U- 保存しない		/U-
/V+ ・ /V-	「印刷中...」画面の表示有無	
/V+ 表示する /V- 表示しない		/V+

4-6 差し込みデータの行ごとにレイアウトを指定する

オプションまたは実行時パラメータで差し込みデータ内のレイアウト名の列番号 /N:n (n は整数) を指定します。レイアウト名はフルパスで指定することもパスおよび拡張子を除いた内容とすることも可能です。ファイル名にパスが無い場合は「レイアウトファイルの場所」として設定された場所を、設定がなされていない場合は印刷コマンドを実行した場所のレイアウトが使用されます。拡張子は自動で “ r l z ” が付加されます。

4-7 イメージフィールドへの差し込み

イメージフィールドへはイメージファイル名を指定することで画像を差し込むことができます。差し込みデータ内にはファイルをフルパスで指定することもパスおよび拡張子を除いた内容とすることも可能です。

ファイル名にパスが無い場合は次の順番で検索し見つかったものを使用します。

【ファイル検索順】

- ① 印刷コマンドの実行ファイル (RakCprB.exe) と同じ場所
- ② レイアウトファイルの場所 (設定されている場所)

パスに加え拡張子も設定されていない場合は次を自動で付加します。

“ . b m p ” または “ . j p g ”

4-8 差し込みデータに改行や制御コードを含ませる

文字フィールドを改行する場合や、QR コードに制御コードを使用する場合には、オプション画面または実行時パラメータで制御コードを使用する「/T+」を指定します。

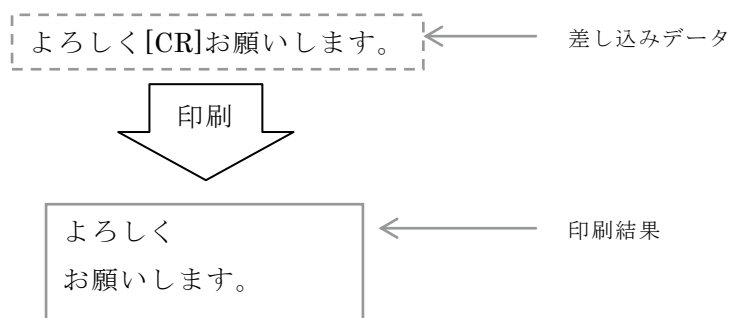
差し込みデータ内には角括弧にて 10 進数または 16 進数のコードを指定するか下表の代替文字を指定します。但し、[x00] のコードについては使用できません。なお、[x0A] または [x0D] のコードが設定された場合は自動的に [x0A] [x0D] の 2 バイトに変換されますのでご注意ください。

制御コードを使用する「/T+」を指定した場合に “[” の文字そのものを表現するには “[” と重ねて入力してください。

表 3 制御コード代替文字

	16 進数	10 進数	代替文字	16 進数	10 進数	代替文字
使用不可 →	x 00	0	NUL	x 10	16	DLE
	x 01	1	SOH	x 11	17	DC1
	x 02	2	STX	x 12	18	DC2
	x 03	3	ETX	x 13	19	DC3
	x 04	4	EOT	x 14	20	DC4
	x 05	5	ENQ	x 15	21	NAK
	x 06	6	ACK	x 16	22	SYN
	x 07	7	BEL	x 17	23	ETB
	x 08	8	BS	x 18	24	CAN
	x 09	9	HT	x 19	25	EM
注意 →	x 0A	10	LF	x 1A	26	SUB
	x 0B	11	VT	x 1B	27	ESC
注意 →	x 0C	12	FF	x 1C	28	FS
	x 0D	13	CR	x 1D	29	GS
	x 0E	14	SO	x 1E	30	RS
	x 0F	15	SI	x 1F	31	US
				x 7F	127	DEL

例) 差し込みデータの途中で改行する場合



4-9 プログラムを作成される場合

ご自分でプログラムを作成し、そこから RakuRakuWin 印刷コマンドを呼び出す方法については開発言語ごとに以下の方法があります。詳細はそれぞれの製品の資料などを参照下さい。また、これらを使用した結果につきましては保証致しかねますので、あらかじめご了承ください。

Microsoft Visual Basic6.0 の場合：

```
Shell("RakCprB.exe", vbNormalFocus)
```

Microsoft Visual C++ 6.0 の場合：

```
ShellExecute(m_hWnd,"open","RakCprB.exe",NULL,NULL,SW_SHOW);
```

以上